令和５年度　授業改善推進プラン

国分寺市立第五小学校

1　学校として目指す授業

考え、豊かに表現する力を育てる授業

2　児童の現状

（1）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校６年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語科は、全国や都の平均を上回り、学力はおおむね定着していると言える。一方、資料を読み取って考えを書く問題の正答率が低く、自分の考えを表現することについての苦手意識が見られる。 ・算数科も全国や都の平均を上回り、計算力はおおむね定着しているが、記述式問題や図形問題で正答率が落ちている。図形を展開・変換するなど頭の中で図形をイメージすることが難しい児童が多い。 ・無回答率が全国や都の平均より高く、問題が分からないときに諦めてしまう児童が多いと考えられる。	・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある」と回答した児童の割合は高いが、「困りごとや不安を、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「友達関係に満足している」と回答した児童の割合は、全国や都の平均を下回っている。信頼関係を構築し、安心して授業に参加できる雰囲気作りが必要になる。 ・本や新聞を読む児童の割合が、全国や都の平均より高い。朝読書やNIEタイムに継続して取り組んでいる成果だと考えられる。

（2）東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校４～６年生）

・「授業の内容がよく分かる・どちらかといえば分かる」と回答した児童の割合は４教科平均で91％あり、児童が授業の内容をおおむね理解できていることが分かる。
・学習の動機として「しっかり考えられるようになりたいから」と考えている児童の割合は約86％で、考えることに対しては意欲的であると言える。
・「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している」という設問に「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、共に約62％であった。授業内容を理解し、しっかり考えようとはしているが、自分の考えをすすんで表現しようとする意欲をもつことができていない児童がやや多いことがうかがえる。

（3）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・外部評価アンケート（保護者・児童3～6年）では、「学習することが楽しく、学習したことがよく分かるか。」を問う設問に対して、児童は約87％、保護者は92％が肯定的に回答している。一方で13％の児童が否定的な回答をしている。学習に苦手意識のある児童にも達成感をもたせることができるよう、授業改善を図ると共に、個別の支援や家庭との連携を考えていく。

3　児童の学力・学習状況等の課題

・自分の意見や考えを表現することについての苦手意識が見られる。自分の考えを相手に正しく伝える力を付けるために、書く活動や話し合う活動の充実を図る必要がある。また、学級の中で安心して意見を出すことができるように、教師・友達との信頼関係や、自分の意見に自信をもてる自己肯定感などを構築していくことも大切である。
・問題が分からないときに、手掛かりを見つけることなく諦めてしまう児童が多い。問題を解決する手掛かりを見付けられるように指導していくことに加えて、様々な視点から解き方を見つける自己解決力も伸ばしていく必要がある。
・学習に苦手意識のある児童にも達成感をもたせるような授業を工夫していく必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1　学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2　児童の現状」にまとめる。
③「2　児童の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「3　児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3　児童の学力・学習状況等の課題」を基に，「4　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4　学校全体の授業改善の視点」を基に、「5　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　学校指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。
評価　◎…実施した。　○…一部実施した。　△…未実施

4　学校全体の授業改善の視点

考え、豊かに表現する力を育てる指導法の工夫

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	自分の考えを書く活動や、ペアで考えを伝え合う活動を意図的に設定し、ＩＣＴを活用して共有（発表）させる。				文章題と具体物の操作を意識させて、思考力の基礎となる活動に取り組ませる。				気付きや疑問を大切にしながら、表現したり話し合ったりする活動を意図的に設定する。		身体表現や聴き合う活動を多く設定し、友達の表現のよさや面白さに気付く力を育てる。		材料と素材の特徴を捉える時間を確保し、自分のイメージしたことを表現する活動を通して、発想する力を育む。				活動をよりよくするための工夫を考えて話し合ったり発表したりする活動を、１単位時間の中で設定し、よさを見付け合う。				様々な考えを認め合うことを大切にし、全員が自分の考えを安心して表現できるようにする。	
中学年	書く活動や話し合う活動の機会を確保し、モデルを示して活動を積み上げていく。話合いでは、少人数での交流も組み込み、安心して表現できるように配慮する。		資料を読み取り情報を整理する時間を設ける。得た情報を精査し、新聞やポスター、プレゼンテーションソフト等にまとめたり、発表したりする機会を意図的に取り入れる。		数量関係や課題を正しく把握するために語句に線を引きながら問題を読んだり図や表に関係を表したりしながら自分の考えをまとめたり友達と話し合ったりする機会を多く設定する。既習事項や話合いの中でヒントを見付けられるようにする。		課題を明確にしてから予想させ、実験結果について全体で共有し、自分の言葉で考察する活動を取り入れる。				ペアやグループで話し合ったり、聴いて感じたことを伝え合ったりする活動を、意図的に設定する。必要に応じてキーワードを提示して、話合いが充実するようにする。様々な形態の発表活動を行い、友達の音楽のよさや面白さを味わえるようにする。		思いついたことを試す活動や試して感じたことを共有する時間を十分に確保することで、発想や構想する力を育む。				ルールを簡易化することで、誰もが安心して取り組むことができるようにする。運動のポイントを捉えやすくし、考えたことや分かったことを友達と共有することで、思考力・表現力を高める。				発問の構成や精選、話合いの工夫により、他者の意見を聞き、意識して多面的・多角的に考えられるようにする。	
高学年	互いの立場や意図を明確にしながら自分の考えを書いたり、話し合ったりする場面を多く設定する。		視聴覚教材を有効に活用し、自ら課題や追究したいことをもたせる授業展開の工夫をする。調べ学習では、予想する、調べる、考えをまとめるなどの学習過程を通して私たちの生活との関連や比較をさせ、学びを深める活動を意図的に設定する。		数量関係や課題を正しく把握するために語句に線を引きながら問題を読んだり図や表に関係を表したりしながら自分の考えをまとめたり友達と話し合ったりする機会を多く設定する。既習事項や話し合いの中でヒントを見付けられるようにする。		生活経験や既習事項を根拠に、実験結果を予想する活動を設ける。また、実験結果をもとにして、仮説の妥当性を説明する活動を充実させる。				ねらいに迫るために、音楽を形づくっている要素を必要に応じて提示し、その要素をもとに話し合えるように工夫する。多くの友達と表現する時間を確保し、安心して表現できるようにする。		ICTを活用した活動や協働的な活動、感じたことや考えたことを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れることで発想を広げたり学びを深めたりし、自ら発信する力を育てる。		どうすれば生活をよりよくしていけるのかを考え、調べることで思考力を高めるとともに、友達との意見の交換を通して、さらに思考を深める。		タブレットや資料と照らし合わせて動きを確認したり、友達と見合ったりする中で客観的に観察し、よさや改善点を見付ける。その内容を伝え合うことで思考力や表現力を深める。		コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を適切に設定することで、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを理解、表現するコミュニケーション力を育むとともに、異文化についての興味・関心を広げる。		他者の考えを聞くことで答えは一つではなく、様々な考えや価値があることに気付かせる。自分の考えが広がるよさや、協働的に学習するよさに気付かせる。多面的・多角的な視点をもたせ、自己の生き方について考えを深める。	